



北海道 造形教育 連盟報

No. 153 2021.12.17発行

発行 北海道造形教育連盟
会長 森長弘美 (札幌市立新陵中学校長)
事務局長 東 尚典 (札幌市立福住小学校長)
事務局 札幌市立福住小学校
〒062-0043
札幌市豊平区福住3条5丁目1-1
TEL(011)854-1318・FAX(011)854-1428
HP <http://hokuzou.kir.jp>



力を結集した挑戦 ～今を生きる、共に生きる大会～

第73回全国造形教育研究大会北海道大会
大会実行委員長 **勝田真塩**
(札幌市立伏見中学校長)

このたびの「第73回全国造形教育研究大会北海道大会」「第70回全道造形教育研究大会札幌大会」を、あのように開催できたことは、本当に幸せなことであったと思います。

「“わたし”を創る～今を生きる、ともに生きる造形教育～」を大会テーマに開催いたしました。全道・全国の仲間の支えなしには成しえない、“新たな私たちを創る、今を生きる、共に生きる”大会であったのではないかと考えています。参加された全国の方々から、開催できたことや研究発表、提言等について高い評価を寄せていただきました。誠に、嬉しい限りです。改めて、この大会のためにご尽力してくださったすべての方に心から感謝申し上げます。

当初は2011年に札幌市を会場に開催した全国大会をモデルとして、多くの授業公開・提言発表などを計画していました。しかし、昨年2月頃から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けはじめ、学校教育は混乱し、教育計画そのものにも見通しがもてない状態になりました。そのような中で、千葉大会が中止となり、本大会の実施の可否の判断が迫られたわけですが、ZOOMによるオンラインでの大会を、北海道の私たちならできると確信し、実施を決断し

ました。

実際には、初めてであるだけでなく、技術的なことや運営方法、経費なども分からなかったのですから、無謀な判断であったといえるかもしれません。しかし、若手はこのような厳しい状況であるからこそ、北海道・札幌として大会開催に挑戦し、全国の仲間と繋がりたいと情熱に満ちていました。

一斉休校や分散登校などの措置がなされ、多くの行事や活動が中止や縮減される中で、子供たちの顔から笑顔が失われている様を見て、私たちは、図画工作や美術の時間を楽しく過ごさせたい、現状に負けたくない、強く願っていたからかもしれません。

研究部は、幼稚園から小学校、中学校、高等学校、特別支援学級での実践を、研究発表・提言発表できるように夜間や休日に何度となくZOOMやGoogle Meet等で協議や検討を重ねました。

WEB部は、それぞれの知識と技術をもちより、また情報を収集しながらアイデアを出し合い、リハーサルを重ねて当日を迎えました。リハーサルや打ち合わせを行うたびに、新たな課題が

明確になるため緊張感がありました。

総務・会計部は、すべてを支え、実現するために涉外や調整、緻密な準備に力を注ぎました。見通しが立ちにくい中では、臨機応変な対応力と確実な事務が求められ、組織力が問われているように思いました。

大会を総括する研究集録部は、皆様の思い出としても残るような集録づくりを進めています。

各部が全力で、正に総力を結集しての挑戦的な大会でした。

結びになりますが、この1年10か月の間、子供たちは行事や学習活動、諸活動を十分には体験することができていません。そのことは、子供たちの学びと育ちに大きな影響を与えているのではないのでしょうか。今後、私たちは校種を超えて子供たちの実態を的確に把握し、子供たちが造形活動を通して喜びと感動を味わい、豊かな学びを広げていくことができよう一層工夫する必要があると考えます。私たち自身が「もっと」の気持ちをこれからももち、挑戦し続けていきたいと思えます。





2021年 10月2日

大会テーマ “わたし” を創る

～今を生きる、共に生きる造形教育～

研究主題

この子が感じる＝考える＝表す 造形活動

～造形的な見方・考え方を豊かにする学びを通して～

今大会では、研究主題に“この子”を位置付けることで、教師主体ではなく子どもを中心とした造形活動を目指してきた札幌市造形教育連盟の主張を、より多くの参会者に伝えることができました。研究発表では、幼稚園から小・中学校、高等学校、特別支援学級と学級・校種の枠を越えた素晴らしい発表を行うことができました。これまでにない形での大会でしたが、大会に携わった全ての方々に感謝を申し上げます。ありがとうございました！これからも「世界に一人しかない“この子”」のためのよりよい造形活動のために尽力して参りたいと思います。

札幌市造形教育連盟研究部長 十亀 健（札幌市立伏見小学校）

研究 発表

札幌わかかさ幼稚園 鳥海 利織

成長を支える～子ども理解と関わり
5歳児・感性と表現に関する領域「表現」

「絵」の活動で手が止まる子を事例に、保育者の見取りや関わりを発表しました。心が動き「もっとかきたい！」と変容していく過程に、保育者のどのような働きかけがあったのか、幼稚園での「評価」の視点に立って考えました。

北海道教育大学附属札幌小学校 三浦真奈美

この子が主体的に感じる＝考える＝表す
小5年『気持ちの形・色』

5年生の絵に表す題材の実践を通して、子どもの主体的な姿、その姿を引き出す教師の役割について考えました。教師の意図的で総合的な教材化と関わりによって生まれる子ども中心の造形活動の在り方を考えました。

札幌市立栄西小学校 黒川 友理

「もっと！」が生まれる、「いい！」を育む
小5年『差し込んだ光から』

箱に開けた小さな穴から中をのぞいてみると、差し込んだ光からどんな世界が広がっているのかを、光と材料、箱の中の奥行やバランスを考えながら、表したいことを思い付くような構成にしました。

札幌市立円山小学校 菊地 惟史

「もっと！」が生まれる題材を目指して
小3年『これにかいたら…？』

「教材化の工夫」の視点を中心に考えました。CDのプラケースの「透明」「重なり」「変化」といった特徴に気づきながら、「こんなことも思い付いた！もっと試してみたい！」と「もっと！」がつながり、広がっていく題材を目指しました。

札幌市立あいの里東中学校 久蔵美和子

「もっと！」があふれる 感じる＝考える＝表す造形活動
『音の絵』音楽を聴いて・特別支援学級の取組

発達の違いが大きい生徒が在籍する特別支援学級で、どの子も自信をもって表現できる題材を考えました。子どもが「音楽」を聴き、曲のイメージの想像を広げ自分らしい形や色彩などを考え、表現することを目標にしました。

札幌市立新陵中学校 市川 雅基

表現する活動を通して自分の生き方を考える授業の研究
中1年『〇〇を表す私の手』

透明水彩を使って自分の「手」を絵に表現する活動を通して、中学校3年間の目標や、生き方について自分なりの主題を生み出し、心豊かに表現する題材です。自分の手を通して3年間の思いを膨らませ、生き生きと表現しました。

札幌市立真駒内中学校 伊藤 彩乃

形や色彩のイメージを膨らませる彫刻題材の研究～抽象表現によるイメージの広がりから「もっと！」を引き出す
中1年『未来に向かう自分～抽象的に表現しよう』

水彩絵の具を用いた“具体的な形やイメージに頼らない表現活動”を通して表現の広がりを体感し、「未来に向かう自分」をテーマとした抽象的な彫刻表現に繋げていきました。

市立札幌平岸高等学校 千葉 有造

「クリエイティブマネジメント・表現と言語化」～普通科デザインアートコース
専門科目・2年「素描」の授業実践から

コースの専門科目「素描」の実践です。専門的な用語の理解と自己評価・相互講評等を通じて自身の目標設定や課題（「もっと」）を発見していく姿を考察していきました。

北海道造形教育連盟の研究主題はこちら

http://hokuzou.kir.jp/research_subject.html





チームで進めた今回の大会。短いですが、各担当から感想をいただきました！

Team 札幌

WEB

史上初のオンライン開催。成功の要因は、①試行⇒修正の繰り返し、②やりながら育てた知識・技能、③ライフオートホテルへの会場変更、④チーム札幌の結束力、です。まさにみんなで「創造」の過程を楽しんだ大会でした！

札幌市立ノホロの丘小学校 矢野宜利

司会

4つのチームに分かれ、話し合いを重ねて大会を迎えました。その過程が何よりの学びだと感じます。参会者からたくさんのご意見をいただくことができ、子どもの姿を通して研究に迫る実りある大会となりました。

札幌市立厚別東小学校 中村麻紀

発表

Bチームは授業づくりから何度も話し合いをZOOMで行い、日に日にブラッシュアップされていくのを実感しながらできました。諸先輩方からプレゼンのアドバイスもいただき、スキルアップできた大会となりました。

札幌市立栄西小学校 黒川友理

記録

ジャンプの授業から携わらせていただき、大変勉強になりました。全国大会では、目の前に「この子」はいませんでしたが、素晴らしい先生方の目を通して子どもの世界を見ることができ、学びが深まりました。ありがとうございました。

札幌市立中沼小学校 波邊千晴



提言 発表

北海道

名寄市立名寄西小学校 栗林 友恵

造形的な見方・考え方を広げる
合科的な学習の在り方

音が鳴る材料に触れることで五感を通した発想や構想を広げたり、音楽の学習で「森のたんけんたい」の曲を扱い、「キツツキの音を表す楽器を作るために、自然の材料を活用してみよう。」と提案することから、曲想に合った音色やリズムを表現するための楽器を製作したりするなど、合科的に学習を行った実践について発表を行いました。

千歳市立北陽小学校 若林 朗子

児童が「もっと」を自ら追求しようとする題材構成の工夫

ステンシルの技法を使い、国語で学習した物語「スイミー」の中で心に残った場面を表す実践を行いました。児童にとって既習の道具や材料、技法、そして物語を活用できるようにしたことで、一人一人が「もっと楽しく」「もっとすてきに」「もっといっぱい」…といった「もっと」を連続させながら表し方の可能性を見出したり選んだりすることができるようにした実践です。

函館市立巴中学校 櫻井 純

身近に感じる美術を目指して

各学年の授業を通して、自己表現の楽しさや魅力を感じると共に、美術を身近なものに感じたり、普段の生活の中で美術が深く関係していることに気が付いたりすることで、自分の生活をより豊かにするための様々な視点を育みたいと考えています。苦手意識が強い生徒であっても取り組みやすい授業を心がけました。

北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程 更科 結希

「協働的な学び」がもたらす
「わたしの更新」を目指した授業の在り方について

表現領域を中心に、「協働的な学び」を位置付けた題材や授業の構造化に着目し実践してきたいくつかの事例を基に、生徒個人の造形的な見方や考え方を拡充し、自律を促す授業の在り方について発表いたします。また、ICTの活用が「協働的な学び」や「わたしの更新」にもたらした効果についても紹介しました。



地区サークル紹介

各地区サークルの活動をホームページで紹介しています。

<http://hokuzou.kir.jp/team-hokkaido.html>



「想像・創造・宗造」 宗造研の活動紹介

研究部長 松尾 道行
(稚内市立稚内南中学校)

宗谷造形教育研究会は令和元年に発足した新しい組織ですが、子どもの造形的な力の育成のため、宗谷管内の図工美術ネットワーク構築と会員の指導力向上を目指し、研修事業を進めています。発足年度は道北ブロック大会に向けた教材研究や外部講師を招いた学習会等などに取り組みましたが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、宗谷でも集まって学び合う機会をなかなか持つことができませんでした。

今年度は9月19日に新学習指導

要領への移行に伴う中学校の年間指導計画の交流研修会をオンラインで実施しました。各校の計画を交流する中で、1年生で全領域を網羅しつつ各題材内容の充実を両立しなければならないという悩み等を共有したり、評価の観点（評価規準）における結果評価と過程・姿勢評価を分けて考える視点を議論したりすることができました。また、図工・美術におけるICT活用事例の交流では、メリットはそれに伴って現れる課題（著作権等の意識や造形活動に対する認識の

変化）を考える等、沢山の学びがありました。

宗谷は図工・美術専科の教員が少なく、免許外で日々奮闘しておられる先生方がたくさんいらっしゃいます。宗造研は今後も北海道造形教育連盟との窓口となり、美術教員以外にも研修会参加を広く呼びかけ、研究成果や蓄積した資料を活用しながら様々な活動を進めていきたいと思っております。

あ と が き

全国大会を兼ねた全道札幌大会を終え、ホッと一息ついたところにこの連盟報が届き、振り返られるようになれば…と思い作成しました。限られた紙面の中で紹介するのは難しかったですが、たくさんの先生にご協力いただき、お言葉をいただくことができました。ありがとうございました。

<北海道造形教育連盟 広報部> 黒川 友理・篠原 貴・濱口 裕子